

---

◇ 金 田 憲 治 ◇

○議長（村松 積） それでは3番、金田憲治君、質問を許します。登壇願います。

3番、金田憲治君。

○3番（金田 憲治） 3番、金田憲治です。

通告では2つの質問をということでありましたが、1つは平成22年度に向けての予算ということで、小池議員の質問ありましたので、私の思っている点をいくつかお話しして、それに代えさせていただきたいと思います。

私ども2つほどその事業をやった中で、感心したことがあります。本年度ですが、北又の公園整備事業であります。この公園は、北又にあります御射山社の境内地にありまして、今でも保育園の運動会には駐車場に使ったり、子供たちが遊園地で遊んだりしていきまして、今後より一体として利用することが地域発展につながる。そういうことでまちづくり交付金の制度を利用して公園整備を図っていただきました。

整備に当たっては、地域住民の声を十分反映するため、区の中に検討委員会を設けまして、村と調整を図り、東屋やトイレの新設。それから遊具の整備、植栽などにより大変に利用しやすくなりました。元々鎮守の杜として、杉の大木やまたは花の木などこんもりとした境内で、氏子が細々とした予算の中で維持管理を行ってまいりました。

今回あずまやなどのほかに、公園整備の一環として枝打ちや不要木の伐採などをしていただきました。その結果、非常に明るくなり、見栄えもすっきりしました。神社などの建物管理にしても、それから子供たちが遊ぶのに防犯の観点からしても、環境整備が図られたことに感謝をしているところでございます。

下條村には、歴史的にも有名な神社、仏閣がありますし、また地域には神社等もあり、地域の人たちのよりどころとなっているところでございます。既に一部国道だとかそういうところを整備されているところなんですが、合わせてこういったところも整備することによりまして、その結果、景観形成がなされ、それから観光誘致の拡大にもつながりますし、また美しい村として発信できると思います。整備に何らかの支援をしていただく事業はどうでしょうかということでございます。

2点目ですが、村制120周年を記念して、長山祥子ショーをはじめ、いろんなその行事が盛大なうちに終了されました。23日には文化祭で歌舞伎をはじめ、年間の練習され

てきた成果の発表がありました。終わったあと、歌舞伎の舞台装置などの片付けを手伝いましたが、大々的な装置でびっくりし、これ維持管理が大変だなというように感じたところでもあります。

伝統ある歌舞伎をはじめ、村吹など魅力ある芸能には集客力もあり活気が感じられます。今回、東京からバスを仕立てられてこられた下條会の方々が、歌舞伎を見られたあと「故郷を感じる。また懐かしいな」と言っていたことが非常に印象的でした。

各地域にあるお祭りも含め、下條村にある文化を継続、発展していくことが大変重要で、教育や強いては定住促進にも大きく貢献していると思いますので、より一層の支援を願うものですが、その辺はどうでしょうかということでございます。

それともう1つ、メリハリのある予算をとということで、平成22年度いろいろなものをお聞かせ願いました。その中で今後また経済対策のものがくるかと思いますが、村内のその事業者にお話をお聞きすると、「売り上げが減っている。非常に苦しい」という答えがほとんどでありますので、また経済対策の中で村の業者等活性化するようなものがありましたら大いにとっていっていただきたいというように思います。

2つ目の質問であります、老人福祉介護保険事業計画の進捗状況についてお伺いいたします。

平成12年度、介護保険制度がスタートし、老人福祉のあり方に大きな方向転換となりました。わずかな期間で「介護」という制度が社会に定着し、介護者や介護支援者にとって明るく活力ある生活が可能になりました。一方、少子高齢化と人口減少が進み、高齢者人口の増大とともに、高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯、認知症高齢者の増加が予想されています。

下條村では、本年度から23年度まで老人対策の指針となる老人福祉介護保険事業計画が策定され、スタートしております。これでございます。立派な計画書ができております。これによりますと、昨年10月時点で高齢者、これ65歳以上の方々ですが、その人口は1,223人、村民の約3人に1人の割合となっていて、その中でも75歳以上、いわゆる後期高齢者は6割を占めているところでございます。

本村でも介護認定者は年々増加傾向にあり、昨年10月には189人、そのうち居宅や施設サービスを受けている人は162人で、実に高齢者の7人に1人の割合となってサー

ビスを受けている方はそういうようになっております。

今後は、団塊世代の高齢化など、高齢者は増加するとともに、特に75歳以上の後期高齢者の占める割合が大きくなっていくと予想していますし、介護認定者やサービスを受ける方々も増加していくと推計しておりますが、この状況に今後どのように対応されていくのか。

また、この計画によりますと、在宅福祉サービスの一環として、宅養老所を23年まで1カ所計画されておりますが、その取り組み状況についてお伺いいたします。

現在、特別養護老人ホーム、その施設を利用したいという人たちが空くのを待っていると聞いております。計画では、在宅福祉サービスの充実を図ることによって、施設利用者の待機軽減を図る、こういうようになっているようですが、施設利用のその根強い希望を耳にするところでございます。広域全体でどのように議論され、また増床等の予定がどのようになっているかお聞きをしたいと思います。

これによりまして第1回目の質問を終わります。

○議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） お答えいたします。

前段に公園の整備等についてでございます。

下條村もこうやって見ると、だいぶ第2段階に入ったのかなと思っております。

過去に公園整備というのはまともに考えたことがなかったわけでございますけれども、1つは保育所の施設がもういっぱいになってしまっていて、運動会なんていったらうちの皆さんがきてもおとこがないというようなことで、グラウンド何とか拡張したいなと思うんですけれども、あれ都会の人が見ればこんなもんだということなんですけれども、私たちが見れば狭いなど。もう少し広い方がよいなど。こうして遊具も限定されておるわけでございますけれども、そこで北又のお宮の改修につきまして、皆さんもお話のように、きちりとした委員会を作っていただいて、長期的に計画を立ていただき、協力いただいて、今回あのような立派というか、村としては立派なものができるわけでございます。

私非常に良かったなというのは、指摘もありましたように、どこへ行っても神社というのは木を切っちゃあれ何か定めがあるんだか知らんけれども、物騒としておるんでなしに

もう建物に追い被さっちゃって、枝一本も落とさないということでございます。

7～8年前に大山田神社、山田河内でございます。これは有志がおりましてやりました。すっきりいたしました。今度北又もそうでございますけれども、よくあれで我慢しておったなということでございますけれども、もう2割くらいやるとまた良かったのかと思いますけれども、まああんなものであろうかと思います。

これからそれぞれの地域のあのような施設、これに対して遊具等も含めてまた検討していかなければいけないということと、今度の予算の中にもこれからくる予算の中にも、環境整備というものに対しては、これ国道筋はだいたいやりましたけれども、この環境整備というのをしっかりやっていきたいなということで、今も既に予算組んでまだ若干残っておりますけれども、組んでおるところでございます。

公共事業も増やせということでございますけれども、そのとおりでございます。ところがご承知のように今回、公共事業も含めて地元要望の中で公共事業をやる固執はあるんですけれども、公共事業をやる要望というのは親田地区が大きなものがあるくらいでございます。ほとんどほかは補修程度のもんでございまして、この狭い37平方キロの村でだいたい整備がうまくいっておるのかなということと同時に、今私どもでは村としても丸抱えの発注から今度相当出しますけれども、今のほかの町村と比べてみて、国の事業とか県の事業というのほとんどもう取り入れるものはないということでございます。村単それからまた当然補助事業等も一生懸命やっておるところでございます。まあまあの状況かなというふうに考えております。

それぞれ各地域にまたもうちょっと補修してほしいとか、竹の根が入ってきて舗装ががたがたしておるとか、U字工事がなんていうようなものもありますけれども、私たちもできるだけ、今度も年内に私は12月のうちに要望のあったところへ全部振興課と回るようにしております。そして早く12月中にはできないんですけれども、早く発注し、発注すれば安心するわけでございますので、そんなことも一生懸命心がけておるということでございますので、あまり考え方に落差のないようにしていただきたいと思います。

それから防災の貯水槽なんということも今まで考えたことはなかったわけでございますけれども、今度は刈谷市と防災協定をやることになりました。刈谷市と下條、刈谷市と今飯田市も入れてやらにゃならん。本来は広域でやりたいんですけれども、定住自立圏の

中でやりたいんですけれども、刈谷市が「向こうの手前があるでもうちちょっとこびそかにしてくれ」ということでやることでございますけれども、そろそろ防災の段階に入ったということで、その事業もやるということでご期待いただきたいと同時に、神社だとかそれから公園、これもそれぞれの地域で見直しして、あれ区に頼むと1年で交代しちゃうとまたやり直しやり直しですから、何か事業をしたいと思ったら北又のように特別委員会を作って、委員長ができちゃうまで変わらないという組織にしていけないとまずいのかなと考えておるわけですので、そんなところでご協力をいただければありがたいと思っております。

それから老人福祉施策でございますけれども、21年、22年、23年と3年計画でございます。前回の第3期計画の検討事項としていろいろ考えておるわけでございますけれども、下條村というのは何せあの居住ゾーンが狭いということ。これ非常に効率に結びつくわけございまして、このグループホーム、このグループホームを私考えてみたら平成6年か7年にやるぞということで決めました。そして北又に関連のある人の土地もそのある事情があって買いました。集落の真ん中にあった方が良いんじゃないかということで。さあ今度はアンケートで「グループホームを造るから、入りませんか」といったところがほとんどいなかったという苦い経験もございます。

特に親田のある人なんかは、私が行ってやぶれ承知でやっておったんだけど、「俺はここで死ぬわい」なんていって「嫌だ」なんて言うんですけれども、今調べても在宅介護、その「グループホームに入りますか」というと1割あるかないかだと思います。それとグループホーム、グループホームというんですが、結構これコストがかかるわけございまして、月に7万円から10万円かかります。7万円から10万円。これはちょうどバスに乗るか乗らんかの同じでございまして、さあやるということに対して乗ってきてくれるかくれないかということが1つの問題。それからもう世の中が変わってしまってこれに対する補助金は公がやったときに一銭もつきません。保育園ももちろんでございますし、一銭もつかないということで全部建設においては村費でやらなければいけない。そしてこれに従事する人が、光の園であれだけ一生懸命やって高い給料払ってもいないというのが現状でございます。

それで本来ならば業者にやっていただければ良いんですけれども、最低9人が常に満床

でないと満杯でないと採算が合わないということで二の足を踏んでおります。たまたま今度デイも光の園も9床増やしていただきました。そのときには光の園の中のデイで5名、それから村内で2名、それから広域の中で2名ということで、いくらか緩和、デイですから基本的には名目は変わるんですけども、基本的にその趣旨は変わらないと思います。第4次計画に今慎重にやっておるところでございます。

広域としてどう考えるかということでございますけれども、広域としても一生懸命やっております。例えば特別養護老人ホームは942床今現にありますけれども、これを1,034床にいたします。介護老人保健施設も640床を719床、介護療養型医療施設を210から230床ということで対応しておるわけでございますけれども、なかなかこれを満足にする。待機者という言葉は私は不適當であろうと思います。入所待機者でなしに入所待機希望者だな、待機者じゃなしに希望者。

厚生省当たり行っても「こんなにおるはずがない」と。それで順番が広域で認定して「今度あなたの番ですよ」というと「ちょっとパスしてくれ」と、こういうのが非常に多いわけでございますので、カウントは入所待機希望者、そういうふうにとらえていかなければいけないということと、これからはたしてどうなるかという問題でございます。1回法律で決めてしまえばいいというものでなくて、法律は今なんか特に変わる世の中でございますので、そこらも含めて今より慎重に考えていくことでございますけれども、実際家庭へ入ってみて現状を見ますと、確かに大変でございますけれども、どちらも国も大変それから家庭も大変という時代になりました。これ私がいいう長寿化社会の1つの現象でございます。

これだけ要望があるということは、将来に向けて固定費がこれだけ増すということ。増すから困ったでなしに、増すことについては私たちは第一優先でやらなければいけないわけございまして、その中でまた下手に飛び込んでまた大変なことになってはいけないわけでございますので、まさにこれこそ広域の中で適当な業者を探して、また光の園にも頼んでおるんですけども、うちはそれ手一杯だという現状を踏まえながら、また前向きに考えていくとこういうことでご理解いただきたいと思います。

○議長（村松 積） 3番、金田憲治君、再質問ありましたら。

3番、金田憲治君。

○3番（金田 憲治） 確かに老人福祉の問題、大変なことだと思っております。

そういう中で、実態を調べていくと北部の方は非常に民間業者が多く入っておりまして、非常にうらやましいなという感じを受けるわけでございます。

今後、やっぱりそういった民間が入ってくるというような状況をうまく実態をつかんでいただきまして、そういうものを伸ばして、これ民間事業者が入ってくるというようなそういうように仕向けていっていただければありがたいなと、こういうように思いますので、1つは要望を申し上げまして、質問に代えさせていただきます。

○議長（村松 積） 要望ということで答弁はらないということですね。